

授業科目名	医療倫理 ・プロフェッショナリズム	担当教員	並河徹、熊倉俊一 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	1年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・スモールグループディス カッション・プレゼンテーション	時間数/単位数	2単位

### 目的・概要

医師、看護師を含む医療人は、個人として、また、専門職集団として、患者や社会の信頼に値する道徳および倫理を身につけ、行動する必要がある。また、患者中心の視点より、患者に対しては、誠実、公正な態度で接し、常に、平等な医療を提供し、説明責任と守秘義務の遵守に努め、利益相反の適切な管理を行うことが求められる。さらに、組織やチームにおいては、協調性・リーダーシップを発揮し、相手を理解し、多様な価値観を受容し、適切な役割を担う必要がある。

本科目では、医師、看護師を目指すものとして求められる使命、役割および心構えについて理解を深め、適切に行動するための基本姿勢を修得する。

<ディプロマポリシーとの関係>

医療人として適切な判断力・行動力  
コミュニケーション能力  
問題解決・自己研鑽能力 その他

### 学修成果（到達目標）

1. 人の命と健康を守る医師・看護師の職責を説明できる。
2. ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、医師の職業倫理指針、医師憲章等医療の倫理に関する規範を概説できる。
3. 患者及びその家族の秘密を守り、医師・看護師の義務や医療倫理を遵守することができる。
4. 患者の基本的権利を説明できる。常に患者中心の立場に立って、患者の価値観を理解して、患者の自己決定を支援することの重要性を理解することができる。
5. 患者の心理・社会的背景を理解し、患者及びその家族と良好な関係性を持つことの重要性を理解できる。
6. 患者・家族の話を傾聴し、共感することの重要性を理解できる。
7. 医療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制を説明することができる。
8. 医療上の事故等(インシデントを含む)や医療関連感染症(院内感染を含む)等を理解し、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することの重要性を説明できる。
9. 医療上の事故等を防止するための、個人の注意(ヒューマンエラーの防止)、組織的なリスク管理(制度・組織エラーの防止)の重要性を説明できる。

### 授業の進め方

スモールグループディスカッション・プレゼンテーション(アクティブ・ラーニング)を基本とする。

### キーワード

プロフェッショナリズム、職業倫理、医師・看護師の義務、患者の権利、医師患者関係、患者中心医療、医療安全、国際医療・国際協力

### 成績評価の方法

#### 総括評価

小テスト(授業時間内で実施するレポート) 全体に占める割合: 70%  
期末試験(課題に対するレポート試験) 全体に占める割合: 30%

#### 形成的評価

グループワーク、プレゼンテーション時に担当教員がフィードバックする。  
試験終了後に、小テスト、レポートは返却する。自己のポートフォリオ評価として、今後の学修に活用する。

#### 合否基準

小テスト、レポート試験の総得点を100点満点に換算したうち60点以上

### 教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

医療プロフェッショナリズム教育: 理論と原則 クルーズ (著, 編集), 日本医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム委員会 (監修, 翻訳) 日本評論社、2012  
緒方洪庵—幕末の医と教え 中田 雅博 (著) 思文閣出版、2009  
Medical professionalism in the new millennium: a physician charter. Ann Intern Med 2002;136:243-6.  
困ってるひと 大野 更紗 ポプラ社、2011

### オフィスアワー

月～金

### コア・カリとの関連

A-1 プロフェッショナリズム  
1) 医の倫理と生命倫理  
2) 患者中心の視点  
3) 医師としての責務と裁量権  
A-4 コミュニケーション能力  
1) コミュニケーション  
2) 患者と医師の関係  
A-5 チーム医療の実践  
A-6 医療の質と安全の管理